



スマイル スマイル

院内報 No.3 2019年6月1日発行
スマイルキッズクリニック
〒750-1143
下関市小月駅前一丁目2番43号
☎083-281-1000



院長コラム



この4月に学会のため、久留米市を訪れた際に撮影した「からくり太鼓時計」です。定時になると久留米市ゆかりの方々（松田聖子さん、チェッカーズ等）の曲を奏でます。「東洋のエジソン」、「からくり儀右衛門」と称された田中久重氏の生誕200年を記念して作られました。からくり人形は機械仕掛けの人形で、ゼンマイ、バネが動力源と簡素ですが、精巧な細工が人形の複雑な動きを可

能にしており、日本のロボット開発の原点になっています。鉄釘、接着剤を使わない作りで、パーツ交換のみで何回でも修復可能なため、製作時の動きを今でもそのまま再現出来ています。学会中に同氏の代表作「弓曳童子」の動く様子がビデオ上映されました。矢を取り、弓につがえ、的に当てる一連の動きは見事でしたが、顔の表情もそれに連動して変化している様で、「これも機械仕掛けなの？」と思えるほどでした。

院長 茶堂 宏



こども百科「これ知っちゃる??」



今回はQ & A形式で「便秘」に対する理解を深めていただきます。

Q：便秘とは？

A：通常外来でよく見かける便秘は、神経・筋肉、全身の病気や生まれつき腸の病気がないタイプの機能性便秘（今回扱う便秘）と呼ばれるものです。

①週に2回以下の排便回数、②排便時痛、③硬便、④直腸の大きな便塊、⑤週に1回以上の便もれ（4歳以上）、これら2つ以上が1か月以上続く場合に便秘と診断します。

Q：便秘を発症しやすい時期、原因は？

A：母乳から人工乳への移行期や離乳食開始時期（乳児）、トイレトレーニング（幼児）、通学開始時期や学校での排便回避（学童）などです。

Q：便秘の悪循環とは？

A：①便貯留→直腸拡大→直腸の感受性低下による便意喪失→便貯留。②便貯留→水分過吸収で硬便化→排便時痛で排便を我慢→便貯留。便秘にはこれら2つの悪循環が生じています。

Q：便秘の初期治療は？

A：便秘の悪循環を断ち切ることが重要です。直腸に大きな便塊がある場合は、浣腸、下剤で最初にこれ

を取り除きます。それに続き、生活習慣の見直し（規則正しい生活、便意を我慢しない、排便の習慣付け、トイレトレーニングの延期など）、食事療法（食物繊維、乳酸菌製剤、水分摂取など）を行い、必要な場合は薬物療法を行います。

Q：便秘の薬物療法は？

A：便を軟らかくする浸透圧下剤から開始して、治療が足りない場合、排便を促す刺激性下剤などを使います。今まで、我が国では前者に酸化マグネシウムがよく使われていました。欧米では既に第一選択の治療薬であったポリエチレングリコールが国内でも製剤化され、2歳以上で処方可能になりました。溶解して服用する同製剤には特有の塩味があるため、内服時の工夫が必要ですが、内服量の調節により便の性状を適正便に維持しやすい特徴があります。

Q：便秘の長期予後は？

A：大人への移行例が少なくなく、一旦治療が成功しても高率に再発します。ただし早期診断、早期治療により予後を改善すると言われています。

院長 茶堂 宏





診察中にぐずっても大丈夫！



診察中に、ご家族が医師とのお話中、静かにできるお子さんは、一緒に医師のお話を聞いていただきます。しかし、小さなお子さんは、じっとできずにウロウロしたり、泣きじゃくったりして、お話を聞くことができないことがあります。そうすると、お子さんが気になり、医師とのお話集中できなくなってくると思います。そんな時は、処置室で私達スタッフがお子さんをお預かりして、しっかりお話ができるようにサポートしています。抱っこしてあやしたり、一緒におもちゃで遊んだり、お絵かきや折り紙をしています。泣き止まないお子さんもおられますが、リラックスして過ごすお子さんもおられます。

私達スタッフがしっかりお預かりしていますので、安心して、医師とのお話集中していただきたいと思っています。 (竹内)



家庭看護力を身に付けよう



2月23日(土)に「小児救急医療研修会」に出席しました。テーマは「家庭看護力」でした。「家庭看護力」の原点は「子どもの様子がいつもと違う」と気付くことです。この研修会で、私達医療者が日々の診療で、ご家族がそれを身に付ける為の助言・サポートをすることの重要性を実感しました。

いざという時に慌てない為にも、下関市保健部発行の「こどもの救急箱」をご覧くださいことがお勧めです。この中には、子どもによくある症状への応急処置や、時間外でもすぐに受診すべき症状のポイントがまとめられています。なお、「こどもの救急箱」は下関市のHPからダウンロード可能です(当クリニックのHP「こどもの救急」からもアクセス可)。 (大田)



風しん第5期定期接種(無料)について



昨年7月下旬頃から関東地方を中心に、風しんの患者数が増加しており、更なる風しんの感染拡大や、これに伴う先天性風しん症候群^注の発生が懸念されています。山口県内でも昨年25人、今年に入って13人(4月5日現在)の風しん患者さんが発生しています。

その対策として、これまで風しんワクチンの定期接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性を対象に定期接種が開始されました。対象の方は、市から配布された受診券を持って医療機関を受診し、抗体検査が陰性の場合、ワクチンを接種することが可能です。 (古谷)



注) 妊娠初期の女性が風しんに感染した際に子どもに生じる合併症(難聴、心臓病、白内障)の総称



おすすめの本の紹介



『しずくのぼうけん』
マリア・テルリコフスカ作
ボフダン・ブテンコ絵
(内田莉沙子訳)
発行所：福音館書店

水滴の『しずく』がバケツから飛び出し、水、水蒸気、氷と姿を変えながら旅をするお話です。

水の性質がイラストでわかりやすく描かれており、楽しみながら学ぶことができます。次は、どんな姿に変わるのか、続きが見たくなります。これから、梅雨時期に入り雨も多くなってきます。そんな雨の日は、しずくちゃんの姿を思い出しながら過ごしてみるのも楽しいかもしれません。 (丸山)



編集後記



第3号は当クリニックを身近に感じていただけるよう、私たちの日々の取り組みについて編集しました。梅雨時期は体調も崩しがちです。しっかり食べて休息をとり、体調管理に気を付けてお過ごしください。 (丸山・竹内)

